中学部

Ⅰ　中学部２・３年グループの実践事例

（Ⅰ）　対象生徒と段階、年間目標等の設定

生徒名	年間目標（国語科で目指す資質・能力）	国語科の段階・目標・主な内容
２年 OY 男子	①見聞き、経験したことを正しい助詞や順序を考え、書いたり話したりする。	小３段階、目標アイ 知・技　ア（オ）ウ（イ） 思判表Ａイウ　Ｂアイ
	②語のまとまり、句読点を意識して短い物語を読んで、要点を理解する。	小３段階、目標アイ 知・技　ア(ウ)(エ)(オ) 思判表Ｃアイエ
３年 IA 男子	①見聞き、経験したことを簡単な感想や正しい助詞、文の構成を考え、書いたり話したりする。	小３段階、目標アイ 知・技　ア（オ）ウ（イ） 思判表Ａイウ　Ｂアイウ
	②語のまとまり、句読点を意識して、短い物語を読んで、要点を理解する。	小３段階、目標ア(ウ)(エ)(オ) 知・技　ア(ウ)(エ)(オ) 思判表Ｃアイエ

（２）　教科等横断的な視点に基づく指導計画の作成

各教科等	単元名（指導内容）★イニシャルは生徒名、番号①②は育成したい年間目標を示す。
国語	「思い出作文を書こう」（行事や活動の作文、発表）…OY①②、IA①① 「物語を読もう」（読み取り）……OY②、IA②
生活単元学習	「笑顔いっぱいせんぼく放送局」（原稿作り、インタビュー、編集）…OY①②、IA①② 「せんぼく校祭をがんばろう」（あらすじの理解、台本読み）…OY②、IA②
日常生活の指導	「帰りの会」（感想発表）…OY①、IA①
総合的な学習の時間	「せんぼくいきいきプロジェクト」（活動の振り返り記入）…OY①、IA①

（３）　重点事項に基づく教科別の指導の授業づくり・授業実践

①　単元名　「思い出作文を書こう２」（計８時間）

②　単元目標（全体目標）

ア　助詞や句読点の使い方が分かり、経験した出来事を文に表す。（知・技）

イ　経験したことから書きたいことを見つけ、短い文で書く。（思判表）

ウ　自分の思いや考えを伝えたり、相手の文章に関心をもって話を聞いたりする。（学･人）

③　単元設定理由

本単元は、生徒が経験した出来事を写真や動画を手掛かりに、三文節程度の文で書き表し、友達や教師と伝え合うことを目的にしている。自分の気持ちをうまく言葉で表現したり、文に書いたりすることが苦手な生徒であるが、前単元では話型に沿って書いたり、写真を手掛かりに話したりすることで、周囲に頑張りを認めてもらうことにつながり、他の授業場面でも積極的に感想を話すようになった。本単元では、学校行事や学習等、経験したことをテーマにすることで、自分の思いや考えを相手に伝えることの楽しさを見出してほしいと考えた。先生に発表する、作文を掲示するという目的を示すことで、助詞の間違いに気を付けたり、相手が読みやすいよう、句読点を適切に使ったりすることができると考え、設定した。

④　単元の個人目標

生徒名	観点	個人目標	評価	国語科の段階・目標・内容
２年 OY 男子	知・技	・助詞や句読点の使い方を知り、穴埋めや選択肢などを手掛かりに文を表す。	○	小３段階、目標　アイ 知・技 ア(オ)　ウ（イ） 思判表 Ａ イウカ　Ｂ イウ
	思判表	・経験したことから書きたいことを決め、短い文で書く。	◎	
	学・人	・自分の思いを伝えたり、相手の文章に関心をもって聞いたりする。	○	
３年 IA 男子	知・技	・助詞や句読点の使い方が分かり、活用しながら文に表す。	◎	小３段階、目標　アイ 知・技ア(オ)ウ（イ） 思判表 Ａ イウカ　Ｂ イウ
	思判表	・写真や動画を手掛かりにして、経験したことから伝えたいことを決める。	◎	
	学・人	・自分の思いを伝えたり、相手の文章に関心をもって話を聞いて質問したりする。	○	

◎：完全に達成しており、生活や学習の中で関連する行動が観察される。
○：ほぼ達成しており、生活や学習の中で概ね関連する行動が観察される。
△：一部達成している。まだ支援を要する。

⑤　授業づくりの重点事項の有効性及び単元における生徒の変容

ア　具体的に考える場面の設定と工夫

（ア）実体験を基にした活動内容の設定と動画や静止画の活用

感想を話したり書いたりすることが苦手な生徒であったが、実体験をテーマにしたことで、「相手に伝えたい」という意欲をもって取り組めた。

「特総体」等の活動時を思い出して書くことができるよう、生徒が競技に臨んでいる動画や静止画を準備した（写真１）。生徒がその時の頑張った気持ちやうれしかった気持ち、楽しかった気持ちを思い出すことに有効であった。

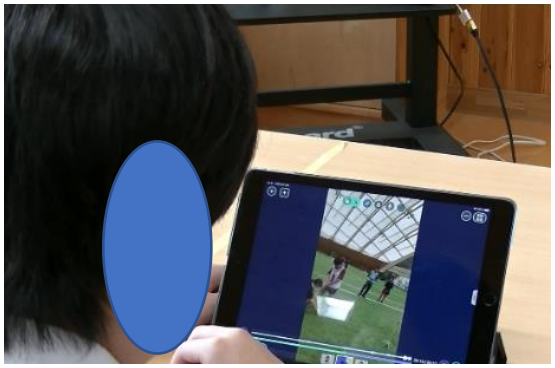

写真１　「ロイロノートスクール」の活用（活動場面の動画の活用）

また、「ロイロノートスクール」を用いて、ノートを開いたところに、写真をスライドにして準備したことで、必要時に自由に開いて見ることができ、気持ちを整理することに有効であった（写真２）。書いたり消したりすることもタブレット型端末で容易にできたので、自分の気持ちを伝えることに専念して文章を記入することができた。ます目等を利用してシートを作成して提示したことで、どこに何を書けば良いか理解しながら取り組むことができた。

写真２　「ロイロノートスクール」の活用（文章の記入）

イ　めあてとまとめの工夫

（ア）めあての提示の仕方

導入で、ジェスチャーゲームを取り入れたことで（写真３）、興味をもって学習に向かうことができた。「〇〇さんは、おにぎりをたべる」などジェスチャーゲームに「を」と「お」を多用した文章を用いたことで（写真４）、より違いを意識して作文を書く活動へつなげることができた。「『を』を正しく使って特総体の作文を書く」というめあてを提示する際も、ジェスチャーゲームの内容から本時のめあてを理解して発言することができ、実態に合った導入であった。

写真３　ジェスチャーゲーム

写真４　めあてとの対応　「を」と「お」

⑥　授業者の課題・改善案

ア　具体的に考える場面の工夫と設定

（ア）思考を深めるための活動内容の精選

学習中はタブレット型端末を使って「書く」活動の比重が多くなってしまい、「助詞を正しく使ったり、自分で思ったことを文に表したりする」という目標から離れてしまうことがあった。「書く」前に十分に「話す」時間を設けるなど、生徒の思いや気持ちを汲んでから、それをまとめる活動に入るなど、伝えたい思いを整理する時間を確保することが大切であった。また、考える時間、書く時間を何分くらい設定するか、次時に行うようにするか等、１単位時間の活動内容を整理する必要があった。

イ　めあてとまとめの工夫

（ア）めあてに迫るまとめの工夫

話合いができる生徒であるので、発表活動を取り入れ、学習の広がりとして学んだことを発表したり相談したりする時間があってもよかった。間違い探しをしたり単語カードをつなげて、文を作ってみたりするなど、「を」と「お」の使い方を理解することができたのか、検証する場面を設定する等工夫が必要であった。また、生徒の理解度に応じて教師の言葉掛けを精選したり、理解できたかどうかまとめの時間に生徒が自分の言葉で話す場面を設けたりする等、言語環境を整える必要がある。

（４）他の学習場面における学んだことの活用

①　指導の形態・学年・対象生徒・単元名

総合的な学習の時間・３年 IA「せんぼくいきいき５ディズ」（計 11 時間）

②　関連する国語科の年間目標

見聞き、経験したことを簡単な感想や正しい助詞、文の構成を考え、書いたり話したりする。（小３段階目標アイ　　知・技　ア（オ）ウ（イ）　思判表Ａイウ　Ｂアイウ　）

③　指導の手立てと対象生徒の様子

ア　助詞の使い方に気を付けた文章の記入

振り返りの際に、「を」と「お」、「は」と「わ」などの助詞の違いの使い方を覚え、間違えずに記入ことができた。間違って書いた場合は、読み直しをすることで、間違いに気付き修正することができた。また、自分や相手が読みやすいように、文の最後に句点を付けることが定着した。

イ　句読点を意識して、文の区切りに気を付けた発表

これまでは、文の区切りや言葉のまとまりが分からずに読むことが多かったが、句読点で区切るように伝えることで、そこで間を置くことができ、相手に分かりやすく、文章を読むことができた。これまでは、文章を読む際に時間がかかってしまうなど苦手意識があったが、スムーズに読むことにつながり、人前で堂々と発表することができるようになってきた。

④　授業者の課題・改善案

ア　語彙の拡充、表現力の向上

経験したことについては、自分で考え、文に表現することができるようになった一方で、地域との方との物作り体験や初めて訪れる場所などでの活動など初めてのことについて言葉が出てこなかったり、感想を求められたときに話すことも難しかったりする場面があった。また、物語文の読み取りでも、相手の気持ちになって考えたり感想を話したりすることが難しいときがあった。物語の要点を押さえたり、登場人物の心情の読み取りを行ったりする活動を取り入れ、より様々な表現に触れる機会を確保したい。

２　中学部２・３年グループの実践事例

（１）　対象生徒と段階、年間目標等の設定

生徒名	年間目標（国語科で目指す資質・能力）	国語科の段階・目標・主な内容
２年 FR 女子	①文の構成を考えて文章を書き、自分の書いた文章を読み返し、間違いを正す習慣を付ける。	中Ⅰ段階、目標イ 知・技イ（ア） 思判表Ａウエ
	②相手やテーマに応じて話すべきことを自分で考え、正しい表現で文章を書く。	小３段階、目標イ 思判表Ａイウ
３年 TK 女子	①季節に応じた表現があることを知り、お礼状や手紙の内容を考えて書く。	中Ⅰ段階、目標ア 知・技　ウ（イ） 思判表Ｂウ
	②主語や述語の使い方を知り、相手に伝わりやすい構成を考えて文章を書く。	中Ⅰ段階、目標イ 知・技イ（ア） 思判表Ａウ

（２）　教科等横断的な視点に基づく指導計画の作成

各教科等	単元名（指導内容）★イニシャルは児童名、番号①②は育成したい年間目標を示す。
国語	「敬語で話そう」（丁寧度、尊敬語、電話の掛け方）…FR①②、TK①① 「手紙を書こう」（読み取り）……FR①②、TK①② 「オリジナルニュース作りをしよう」…FR②、TK②
生活単元学習	「笑顔いっぱいせんぼく放送局」（原稿作り、インタビュー、編集）…FR①②、TK①②
作業学習	「販売会をしよう」（目標設定と振り返り）…FR①、TK②
日常生活の指導	「帰りの会」（感想発表）…FR②、TK②
総合的な学習の時間	「せんぼくいきいきプロジェクト」（活動の振り返り記入）…FR①、TK②

（３）　重点事項に基づく教科別の指導の授業づくり・授業実践

①　単元名「手紙を書こう２」（計８時間）

②　単元目標（全体目標）

ア　礼状の形式が分かり、丁寧な言葉を使って手紙を書く。（知・技）

イ　相手に伝えたい内容を明確にし、伝わりやすい順序や表現を考えて手紙を書く。（思判表）

ウ　書いた手紙を自分から読み直し、間違いを正したり、よりよい表現に変えたりしながら、相手に伝わりやすい手紙を書く。（学・人）

③　単元設定理由

本単元は、お世話になった校内の先生に礼状を書くという活動を通して、相手に応じた言葉遣いや相手を意識した文の書き方を身に付けてほしいと考え、設定した。前単元の暑中見舞いや残暑見舞いを書く活動では、季節の挨拶や結びの言葉等、手紙を書く決まりや丁寧な言葉遣いについて取り上げた。自分が書いた手紙について返事をもらうことで、手紙を書くことへの楽しみを見出し、より相手に喜んでもらえる表現の仕方について理解を深めることにつながった。また、丁寧な言葉で話すことの必要性を理解し、他の学習場面や地域の方との交流でも言葉遣いに気を付けて話すことができるようになってきた。これらのことから、本単元では、お世話になった先生に感謝の気持ちを伝えるという目的を明確にし、本文の内容を考えることに重点を置くことで、より相手に分かりやすい表現方法を身に付けることができると考え、設定した。

④　単元の個人目標

生徒名	観点	個人目標	評価	国語科の段階・目標・内容
２年 FR 女子	知・技	・礼状の前文、本文、末文の形式が分かり、「です」「ます」「ので」等の丁寧な言葉を使って手紙を書く。	◎	中Ⅰ段階、目標イ 知・技　ア(カ) 思判表　Ｂア
	思判表	・お世話になった人に対して感謝の気持ちが伝わるよう、心に残ったことや学んだことを振り返って文章にまとめる。	○	
	学・人	・相手に喜んでもらえる手紙を書くことを意識して、書いた文章を読み直し、相手に応じた内容の手紙を完成させる。	○	
３年 TK 女子	知・技	・季節や相手に応じた前文や末文の表現が分かり、敬語を正しく用いて手紙を書く。	◎	中Ⅰ段階、目標イ 知・技　ウ(イ) 思判表　Ｂイ
	思判表	・お世話になった人に対して感謝の気持ちが伝わるよう、心に残ったことを振り返ったり、伝わりやすい構成を考えたりする。	◎	
	学・人	・相手に喜んでもらえる手紙を書くことを意識して、書いた文章を自分から読み直し、より分かりやすい表現を考えて加筆修正しながら手紙を完成させる。	○	

◎：完全に達成しており、生活や学習の中で関連する行動が観察される。
○：ほぼ達成しており、生活や学習の中で概ね関連する行動が観察される。
△：一部達成している。まだ支援を要する。

⑤　授業づくりの重点事項の有効性及び単元における児童生徒の変容

ア　具体的に考える場面の設定と工夫

（ア）「ロイロノートスクール」の活用

「ロイロノートスクール」を活用し、思考を整理するために、項目ごとにシートを作成した（写真５）。礼状に記入する内容が一目で分かり、考えることが苦手な生徒もじっくり考えながら入力することができた。また、「書く」「消す」が容易にできることや、予測変換で必要な言葉が瞬時に選択することで、自分の気持ちを整理することに時間をかけることができた（写真６）。礼状の下書きという点で有効な活用方法であり、その後の鉛筆を用いた清書の時間も確保することができた。

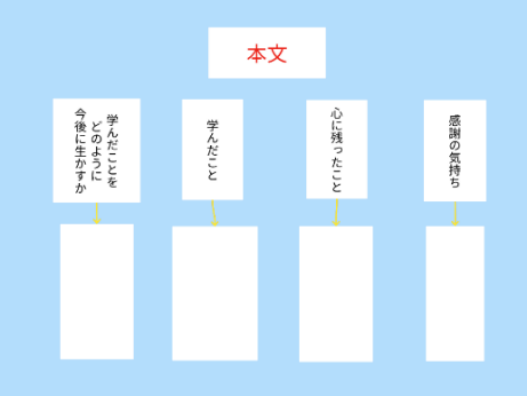

写真５　「ロイロノートスクール」
（思考の整理）

写真６　「ロイロノートスクール」(下書き)

イ　めあてとまとめの工夫

（ア）単元のゴールを明確にした学習計画

「お世話になった先生に礼状を書く」という明確な目的があることで、「丁寧な言葉を使う」「きれいな字で書く」「相手のことを考えた内容にする」など、日頃課題となっていることに向き合い、活動に取り組むことができた。

また、相手のことを考えて行動することが苦手な生徒には、礼状のよい見本と、悪い見本（写真７、８）を「ロイロノートスクール」で示したことで、相手に気持ちがより伝わる表現の方法を考えて取り組むことができた。

手紙を書いたり、もらったりする経験は少ない生徒たちであったが、前単元で「手紙はもらうとうれしい」などの経験を積んだことで、単元のゴールを意識して、学習に向かうことができた。ゴールが明確に示されていることで、まとめでは、お世話になった

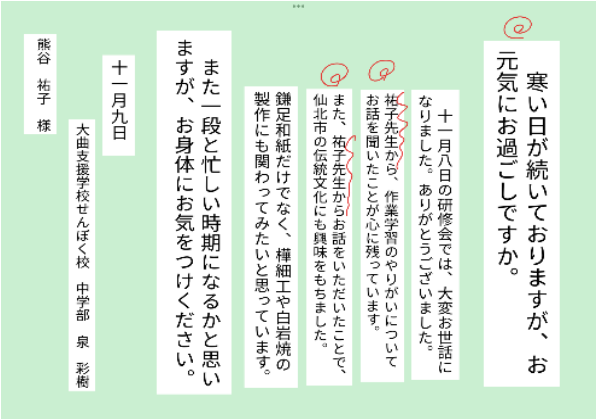

写真７　　礼状の見本（よい例）

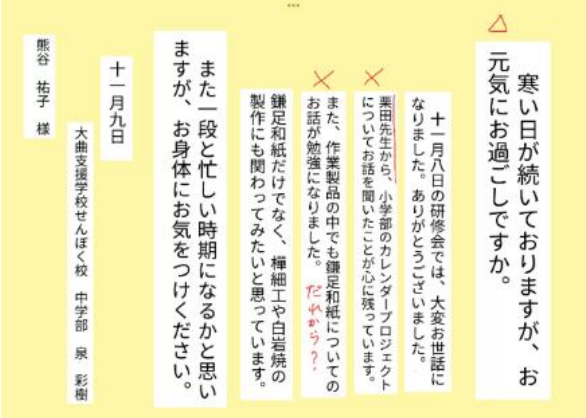

写真８　　礼状の見本（悪い例）

気持ちを「製品を作るためにたくさんアドバイスをもらったこと」「上手に紙すきをするための方法を丁寧に教えてもらったこと」など書いたことを話すことができた（写真９）。

写真９　学習のまとめ

⑥　授業者の課題・改善案

ア　具体的に考える場面の設定と工夫

（ア）正しい言語表現の指導

生徒が表現として誤った言葉の使い方をした際に、訂正をしたり、場合によっては正しい表現方法を考えさせたりする必要があった。生徒は教師が話す言葉を日常的に使用する場合もあるため、日頃から正しい言葉遣いも含めた言語環境の充実が求められる。

（イ）表現、気持ちを深めるための手立て

礼状にまとめるために、４つの項目を準備し、一つずつ考え記入したが、項目によっては生徒の考えがまとまらなかったり、その活動を思い出せずに言葉が出てこなかったりすることがあった。手立てとして、生徒の思考を促すために活動場面が分かる静止画等の準備や、思い出せるような教師の言葉掛けが必要であった。言葉掛けするためには生徒がどのような場面で困るのか、あらかじめ生徒の様子を想定したり、その場面になったときにどのような発問するのか考えておいたりする必要がある。生徒の反応を十分に予測した言葉掛けの準備が必要であった。

（４）　他の学習場面における学んだことの活用

①　指導の形態・学年・対象生徒・単元名

生活単元学習・３年 TK・「笑顔いっぱいせんぼく放送局④」（計２０時間）

②　関連する国語科の年間目標

主語や述語の使い方を知り、相手に伝わりやすい構成を考えて文章を書く。

（中Ｉ段階　目標イ　知・技イ（ア）思・表・判Ａウ）

③　指導の手立てと対象生徒の様子

ア　経験したことを基にした文の記入

以前は定型文に頼り、自分の気持ちを話したり書いたりすることが苦手であったが、文の構成を理解し、項目ごとに自分の考えを書くことを繰り返してきたことで、経験したことを思い出しながら、感想を書けるようになってきた。アナウンサー役の生徒が話す原稿の記入では、体験したことを思い出しながら、「分かったこと」「教えてもらったこと」など項目に沿って、「高等部の作業学習を見て体力をつけることや丁寧さが大切と思いました」「まちのみなさんが協力して冬の角館をもりあげていることが分かりました」など台本となる文を記入することができた。

イ　丁寧な言葉遣いの定着

「手紙を書こう」の単元で、相手に応じた言葉遣いについても触れることで、地域の方や教師と話すときに、「です」「ます」を語尾に付けるなど丁寧な言葉遣いが定着した。また、ニュースを見る視聴者のことを考え、相手にとって分かりやすい表現方法について友達と相談する様子も見られた。

④　授業者の課題・改善案

ア　話し言葉と書き言葉の整理

教師や地域の方と話をする際は、丁寧な言葉を用いて会話をするようになってきたが、

文に記入する際は、「でも」「ちゃんと」「すごく」「なので」などの話し言葉を用いてしまうことがあった。礼状の作成で身に付けた正しい文の記入を様々な場面でできるよう、繰り返し指導していく必要がある。正しい表記を身に付けることができるよう、新聞等を活用していきたい。

３　まとめ

（１）成果

①　単元のゴールを明確にした指導計画の作成

実態把握を基に、生徒の目指す項目や興味関心のある事柄を中心に単元を構成した。指導計画を作成する時は、何のための授業であるのかゴールを明確に生徒に示したことで、生徒が自分の課題と向き合い、かつ意欲的に学習に向かうことができた。また、今年度は年間を通して、いつどの時期に何の単元をどのように行うのか、例年よりも詳しく年間指導計画を設定したことで、生徒の様子を見ながら段階的に指導に当たることができた。

②　ＩＣＴ機器の活用

ロイロノートスクールを用いたタイピングやテキストの活用は生徒の思考の整理や、スムーズな音読につながった。思考の整理では、「感謝の言葉」「心に残ったこと」など項目ごとにシートを作成したことで、自分の気持ちを短い時間で打ち込むことができた。音読では、読む部分が分かりやすいように短い文章でスライドにしていくことで、苦手意識を克服した生徒もいた。書くこと、読むことが苦手な生徒の補助として使用したので、意欲や集中力の維持にも効果的であった。生徒の実態に合わせて自作教材を活用し、それらを見合い、互いに活用することができたので、今後も継続していきたい。

（２）課題

①　各教科等を合わせた指導への般化

国語はほとんどの教師が同じ時間に授業をもっているため、なかなか見合う時間がとれない。生徒の目標に関しては周知することができたが、どのような授業内容で行っているのか確認する時間がなかったため、国語科で学んだことを生活単元学習などの各教科等を合わせた指導に、十分に生かすことができなかった。

また、生徒によっては、質問に対して自分の考えを表出するまで時間がかかる場合もある。教師が生徒の発言を先回りしたり、生徒の理解に合わない発問の仕方をしたりすることがないように、生徒一人一人の言語理解についても職員が共通理解することで、より般化が期待できると感じた。

②　生徒の目標に基づく１単位時間の学習内容の設定

年間の中での単元設定には一定の成果が見られたが、より細かく、１単位時間の授業の中で、学ばせたいことを精選して取り組ませていくのは難しかった。様々な実態の生徒が同じグループで学習しているため、生徒に身に付けてほしい知識や表現は多岐に渡る。そのため、限られた時数の中で何をどのように学ばせていくのか、授業の組み立ての仕方については、今後検討が必要である。